

## 二つの『單字解』(上)

竹越 孝

### 1. はじめに

李氏朝鮮時代の訳学者崔世珍(1467-1543)の手になる『老朴集覽』(1517年以前成立)には、『單字解』という一篇が収められている。この『單字解』は、『累字解』とともに崔世珍が『老乞大』・『朴通事』中の常用語彙を集めてなした注釈集であり、漢字一字のものを対象としている(『累字解』は二字以上)。管見の限り、『單字解』には二つのテキストが存在する。

その一つは1960年代に発見された『老朴集覽』の乙亥銅活字本である。現在は韓国・東国大学校図書館蔵、我々はこれを李丙疇(1966)の影印によって見ることができる。同書は全体として次のような構成を持つ：

『單字解』・『累字解』(10葉)

『老乞大集覽』(上巻3葉、下巻4葉)

『朴通事集覽』(上巻15葉、中巻9葉、下巻13葉)

『單字解』と『累字解』は葉を分かつずに続くので、中村完(1967)は本来この二篇は合わせて一篇をなし、『字解』と称すべきであるとしている。その『字解』の部分は毎半葉9行18字、他の部分は毎半葉10行18字(いずれも上に1字分の空格あり)と体裁が異なっているが、李丙疇(1966)によると同書の大部分は紙を縦または横につきはぎして作られているというから、ある種寄せ集めの書物であったことが窺われる。

もう一つは『朴通事諺解』(1677年序)の附録であり、我々はこれを『奎章閣叢書』等の影印によって見ることができる。同書には『朴通事集覽』が夾注の形で組み込まれているほか、巻末に『老乞大集覽』(上巻2葉、下巻4葉)と『單字解』(5葉)が附録として収められている。その経緯については『朴通事諺解』巻頭の李聯命序に詳しい：

近有宣川譯學周仲者、於閭閻舊藏偶得一卷書曰老朴輯覽、其下又有單字解、亦世珍所撰也。蓋漢語之行於國中者、有老乞大有朴通事、所謂輯覽即彙二冊要語而註解者。自得是本、窒者通疑者解、不啻若醒之呼寐燭之遇幽。時則左議政臣權大運提調是院、以譯學之未明華語之未熟爲慨然、使舌官邊暹・朴世華等十二人、就輯覽考較證訂作朴通事諺解、辛勤致志過一年始成、而以輯覽及單字解付其後。(序 1a9-1b-7)

これによると、発端は訳学生周仲が偶然『老朴輯覽』及び『單字解』を入手したことであり、その価値を認めた左議政權大運が邊暹・朴世華ら12人の訳官

を動員して『輯覽』に基づく校訂本『朴通事諺解』を作らせ、さらに『輯覽』と『單字解』をその附録としたという。ここで『朴通事諺解』の基になった『輯覽』とは『朴通事集覽』を指し、附録の『輯覽』とは『老乞大集覽』を指すであろう。『單字解』の体裁は『老乞大集覽』と同様、毎半葉 11 行 20 字（いずれも上に 1 字分の空格あり、『朴通事諺解』は毎半葉 11 行 21 字）である。

本稿では、現存する二つの『單字解』テキストを比較した結果を示すとともに、それに付随する若干の問題を考察することにした。

## 2. 項目の比較

『單字解』の乙亥字本『老朴集覽』所収本（以下「乙亥字本」と称する）と『朴通事諺解』附録所収本（同「朴通事本」）では、収録項目に違いがある。いま乙亥字本を基準として項目に通し番号を付し、二つのテキストにおける該当箇所を示すと以下の通りである：

No.	項目	乙亥字本	朴通事本
1	喫	1a2-3	1a2
2	休	1a3	1a3
3	等	1a3-4	1a3-4
4	毎	1a4-5	1a4-5
5	待	1a5-6	1a5-6
6	恰	1a6-7	1a6
7	只	1a7	1a6-7
8	這	1a7-8	1a7
9	還	1a8-1b1	1a7-9
10	和	1b1-2	1a9-10
11	但	1b2	1a10
12	安	1b2-3	1a10-11
13	料	1b3-5	1a11-1b2
14	彈	1b5-6	1b2
15	剛	1b6	1b2-3
16	沒	1b6	1b3
17	歿	1b6-7	1b3
18	撒	1b7	1b3-4
19	慢	1b8	1b4
20	稍	1b8	1b4-5
21	底	1b8-9	1b5-6

22	借	1b9	1b6
23	扯	1b9-2a1	1b6
24	消	2a1	1b6
25	裏	2a1-2	1b6-7
26	里	2a2-3	1b7-8
27	俚	2a3-4	1b8-9
28	滾	2a4-5	1b9-10
29	且	2a5	1b10
30	噯	2a5-6	1b10-11
31	咳	2a6-7	1b11-2a1
32	阿	2a7-8	2a1-2
33	胡	2a8	2a2
34	迭	2a9	2a2
35	乾	2a9	2a2-3
36	直	2a9-2b1	2a3
37	捱	2b1	2a3-4
38	挨	2b1-2	2a4-5
39	教	2b2-3	2a5
40	交	2b3	2a5
41	怕	2b3-4	2a5-6
42	與	2b4-5	2a6-7
43	也	2b5-6	2a7-8
44	廝	2b6-7	2a8-9
45	另	2b7	2a9
46	纔	2b7-8	2a9-10
47	趕	2b8-9	2a10-11
48	保	2b9-3a1	2a11
49	嫌	3a1	2a11-2b1
50	倒	3a1-2	2b1-2
51	偏	3a2-3	2b2
52	遍	3a3	2b2
53	着	3a3-5	2b2-4
54	了	3a5	2b4
55	要	3a5-6	2b5
56	咱	3a6-8	2b5-7

57	箇	3a8-3b1	2b7-8
58	那	3b1-2	2b8-10
59	的	3b2-4	2b10-11
60	地	3b4-5	2b11-3a1
61	們	3b5-6	3a1-2
62	做	3b6-9	3a2-5
63	勾	3b9-4a2	3a5-7
64	打	4a2-4	3a7-9
65	將	4a4-5	3a9
66	把	4a5-7	3a10-11
67	來	4a7-8	3a11-3b1
68	怎	4a8-4b1	3b1-3
69	麼	4b2-3	3b3-5
70	甚	4b3-5	3b5-7
71	討	4b5-7	3b7-8
72	索	4b7	3b8-9
73	都	4b8	3b9
74	便	4b8-5a2	3b9-4a1
75	隨	5a2	4a1
76	該	5a3	4a1-2
77	兒	5a3-5	4a2-3
78	却	5a5	4a3-4
79	早	5a5-6	4a4
80	些	5a6	4a4
81	時	5a6-7	4a4-5
82	往	5a7	4a5-6
83	你	5a7	4a6
84	恁	5a8	4a6
85	快	5a8-9	4a6-7
86	刺	5a9	4a7
87	儘	5a9-5b2	4a8-9
88	朝	5b2	4a9
89	家	5b2-4	4a9-10
90	忒	5b4	4a10-11
91	越	5b4-5	4a11

92	敢	5b5	4a11-4b1
93	就	5b5-7	4b1-2
94	虧	5b7-8	4b2-3
95	眼	5b8	4b3
96	丟	5b8	4b4
97	頓	5b9	4b4
98	使	5b9-6a1	4b4-6
99	好	6a1-2	4b6
100	歹	6a2	——
101	殺	6a2-4	——
102	償	6a4	——
103	多	6a4-6	——
104	少	6a6-7	——
105	賃	6a7-9	——
106	典	6a9-6b1	——
107	償	6b1-3	——
108	雇	6b3-4	4b6-7
109	哄	6b4	4b7
110	認	6b4-5	4b7-8
111	弔	6b5-6	4b8-9
112	短	6b6	4b9
113	趨	6b6-7	4b9-10
114	會	6b7	4b10
115	者	6b7-8	4b10-11
116	幾	6b8-9	4b11
117	擺	6b9	4b11-5a1
118	曾	6b9-7a1	5a1
119	遭	7a1	5a1-2
120	般	7a1-2	5a2
121	頭	7a2-3	5a2-3
122	旋	7a3-4	5a3-4
123	到	7a4	5a4-5
124	饋	7a4-5	5a4-5
125	綫	7a5	5a5
126	他	7a6	5a5-6

127	猜	7a6	5a6
128	廣	7a6	5a6
129	耍	7a6-7	5a6-7
130	連	7a7-8	5a7
131	偌	7a8	5a7-8
132	扮	7a8-9	5a8
133	倣	7a9	—
134	保	7a9-7b1	—
135	養	7b1-2	—
136	趁	7b2	—
137	躡	7b2-3	—
138	走	7b3-4	—
139	閑	7b4-6	—
140	害	7b6	—
141	忙	7b7	—
142	網	7b7	—
143	莫	7b7-8	—
144	委	7b8	—
145	生	7b8	—
146	發	7b8-9	—
147	落	7b9-8a1	—
148	管	8a1-2	—
149	假	8a2	—
150	爭	8a2-3	—
151	媳	8a3	—

### 3. 項目の欠落

上表によると、収録項目の総数は乙亥字本が 151 に対して朴通事本が 124 であり、後者は 100-107 及び 133-151 の計 27 項目を欠いていることがわかる。これにより乙亥字本の方が善本であることが改めて確認されるが、ここではテキストの流伝に関わる問題、とりわけ朴通事本における項目の欠落が如何にして生じたかということを考えてみたい。

現存の乙亥字本『老朴集覽』の構成は、『單・累字解』、『老乞大集覽』、『朴通事集覽』の順となっているが、先に引いた李聃命序には「偶得一卷書曰老朴輯覽、其下又有單字解」とあり、また『累字解』の存在に全く触れるところがな

いから、朴通事本の底本となった『老朴集覽』が現存のそれと異なる構成を持っていたことは確実である。したがって、末尾の部分に欠落があることはさほど不思議ではない。問題は中間の 8 項目にわたる欠落である。

朴通事本におけるこの欠落は、乙亥字本では葉の途中から途中、具体的には第 6 葉表の第 2 行 8 字目から第 6 葉裏の第 3 行 5 字目までにあたる。一般的に言って、後代のテキストにおいてある程度まとまった量の欠落が生じた原因としては、それが依拠したテキストに欠葉があったとするのが最も自然な解釈であろう。このような欠落の仕方を、朴通事本が現存の乙亥字本と同じ体裁のテキストに依拠したという立場から説明することは困難である。

興味深いのは、この欠落がほぼ 10 行分にあたるということである。現存の乙亥字本『老乞大集覽』・『朴通事集覽』がともに毎半葉 10 行のテキストであることよりすれば、『單字解』にも現存の 9 行本とは異なる体裁の 10 行本が存在し、朴通事本が基づいたのはそちらのテキストであったと考えることが可能である。試みに、現存の 9 行本を 10 行ずつ数えてそれぞれを想定される 10 行本に対応させていくと、次のようになる（篇名を記した冒頭の 1 行は除く）：

<9 行本>	<10 行本>
1a2-1b2	1a
1b3-2a3	1b
2a4-2b4	2a
2b5-3a5	2b
3a6-3b6	3a
3b7-4a7	3b
4a8-4b8	4a
4b9-5a9	4b
5b1-6a1	5a
<u>6a2-6b2</u>	<u>5b</u>
6b3-7a3	6a
7a4-7b4	6b

これによれば、朴通事本における欠落部分はほぼ 10 行本の半葉分に相当することになり、欠落が生じた理由は依拠したテキストの欠葉にあったと無理なく説明できる。もちろん、一行の字数が同じであったという保証はないので正確は期しがたいが、一考に値する仮説ではなかろうか。

(待続)

#### <参考文献>

李丙疇 (1966) 『老朴集覽考』 서울：進修堂.

中村完 (1967) 「李丙疇編校『老朴集覽考』」『朝鮮学報』45：118-124.